

令和七年九月 韶賢光明

華嚴宗 韶賢光明寺

今月の法話

一、「觀音様とお地蔵様」 二、「華嚴唯心偈」

一、「觀音様とお地蔵様」

九月は觀音大祭があります。そして横浜教会の本尊開眼四〇周年となります。本当に早いものです。八月十七日には十四年ぶりに勉強会を開きました。来られた信者さんも、懐かしく思われたと思います。大祭では横浜教会の本尊様と共に法要致しますのでご利益も大きなものですね。皆さんは觀音信者です。この御縁日に功德と御守護をお祈りくださいませ。さて、觀音様は、世の中の音を観ると書きます。すなわち世の中の人々の声をはつきりと見極め救済する菩薩なのです。その為に觀音様はその人に相応しい姿に変わつて現れます。変幻自在の觀音様はある時は美しい女性や、優しい男性、可愛らしい子供の姿、鬼神の姿とあらゆる姿へ。貴方の友人、兄弟、同僚、喧嘩相手や隣のわんぱく坊主も、そしてあなた自身も觀音様となるのです。仏様は私達の人の魂に宿り色々な経験や試練を与えて、私達の魂を導き磨かることを助けるのです。必要な時には素晴らしい医師に巡りあつたり、素晴らしいアドバイザーに出会つたりするのです。もちろん皆さんは觀音様に繋がり導かれたのですからまさに選ばれたと思ひます。この縁はとても大切にして下さいませ。

しかし、ただ優しく何でも願い事を叶えてくれるだけではありません。時には恐ろしい顔で叱りつけることもあります。これも慈悲なのです。その人のためだと考えれば願いを叶えてくださらないこともあります。人々は欲望が強く、その欲望に応じて觀音様は、正觀音、十一面觀音、千手觀音、不空羈索觀音、准胝觀音、如意輪觀音、馬頭觀音があります。また觀音様は阿彌陀如来とも同体とされ、勢至菩薩と共に人が死した時、西方淨土から迎えに来てくださるといわれ、この世とあの世の導きもされます。そして、不空羈索觀音の二十八利益は、まさに現世のみならず、臨終の際のご利益も含まれます。觀音信仰は千五百年以上も信仰され、全国に広まり日本人の心を救われたのです。私達は、觀音の心で救える人々を身を持って対応し、自ら救済する仏とならなければならないと思ひます。小さな実践をしてみてくださいませ。

また觀音様の次に信仰の多い仏様はお地蔵様です。釈尊が入滅され五十六億七千万年後に弥勒菩薩として転生されるまでこの世を地蔵菩薩に託されたと言われています。

『地蔵菩薩本願經 間浮衆生業感品』に曰く、昔あるところに二人の王がありました。二人は苦しむ国民を見て誓願を起されました。一人の王は一日も早く悟りを開いて仏になり人々を助おうと誓願を起こし「一切智成如來」という仏になられました。もう一人は皆を救いきるまで仏にならないと誓願をたてられ「地蔵菩薩」となられました。

地蔵の名の起こりは人々の苦しみ悩みから救つてくださるという大悲の心が、大地のなかにあらゆる物の命を育む力が蔵されているように、人々を無限に慈しむ心を持つておられるというところから、地蔵菩薩と言われたという。人々の苦しみの救済と共に、死した後も、慈悲の手を垂れて下さいます。地蔵菩薩は地獄の衆生も救われ、無数の分身を作り觀音様と同じように姿を変えて私たちに救いの手を差し伸べてくださいます。

釈尊が入滅され五十六億七千万年後に弥勒菩薩として転生されるまでこの世を地蔵菩薩に託されたと言われています。六道全てを救われることから六地蔵の信仰が生まれ、『覺禪鈔』などにその名前と持ち物が書かれています。ただし、現在ではほとんど区別されていないようです。

地獄	大定智慧地蔵	左宝珠	右錫杖	餓鬼	大德清淨地蔵	左宝珠	右与願印
畜生	大光明地蔵	左宝珠	右如意	修羅	清淨無垢地蔵	左宝珠	右梵筐
人間	大清淨地蔵	左宝珠	右施無	天上	大堅固地蔵	左宝珠	右經典
(真言)	オン	カカカ	ビサンマエイ	ソワカ			

街道沿いや、辻そして境界等に六地蔵が祭られています。その前を通つたら頭を下げ御真言を唱えてくださいませ。

二、『華厳唯心偈』について

心は工なる画師の如く、種々の五陰を書き
一切世界の中に法として造らざるものなし。

心の如く仏も亦爾り、仏の如く衆生も然り。

心と仏と及び衆生とは是の三差別なし。

諸仏は悉く一切は心より転ずと了知したもう。

若し能く是の如く解らば彼の人は眞の仏を見たてまつらん。

心も亦是の身にあらず。身も亦是の心にあらずして。

一切の仏事を作し、自在なること未だ曾て有らず。

若し人三世一切の仏をよく知らんと欲せば

應當に是の如く観すべし。心は諸の如來を造ると。

華嚴宗において最もよく唱えられる「如心偈」は華嚴經の一節であります。華嚴の教えを端的に表現するものとして古く唐の時代より重要視されてきました。「破地獄の偈」とも呼ばれます。これは唐の時代の僧侶で華嚴宗の第三祖とされる法藏が記した『華嚴經疏』に出てくる逸話に依ります。

「文明元年（六八四年）、都の人であつた王某（後世では明幹）といふものがいた。この者は生前善いことをしてこなかつたが地獄の門前に立つた時、地蔵菩薩が現れこの偈文を教えた。これを読誦することにより地獄苦を免れた」というお話です。この破地獄の偈は唐代の則天武后の治世（六八〇年頃）において広く流布され、それが日本に伝わつたのです。ただ正確に言えば、破地獄の偈とされるのは最後の一節である「若人欲了知 三世一切仏 應當如是觀 心造諸如來」なのです。私なりに意訳すれば以下のようになります。「若し過去・現在・未來のすべての仏を知りたいと望むのであれば、このように世の中を見なさい。『すべての仏を造るのは心である』と。」

この華嚴においてこの唯心の偈文がなぜ重要視されるのか。如來を造るのは「心」であるということはその逆を言うこともできるのです。地獄を造るのも「心」であるということです。現在の世界には様々な地獄が現れています。それはガザであり、レバノン、ウクライナ、さらにブルンジや南スードンなど内戦に苦しむアフリカ諸国。世界の各地で戦争や飢餓、薬物、暴力が絶えず衆生を襲ってきます。しかし、これらの災難は執着や欲望、怒りや復讐心といった人々の持つ心が造り出した地獄に他なりません。これを破るにはまさに心をもつて仏を造り出すより他にないのです。そして、仏を生み出す心を持つための工夫を仏道はつと説いてきました。それが、祈りであり、禪であり、密教であり、念佛であるのです。すべての仏道の実践はまさにこの教えに繋がっているのです。

「心造諸如來」を目指す先と定めて、私達は仏道修行に臨まねばなりません。ゆえに、この『如心偈』（唯心偈）は必ず読誦するように心がけてくださいませ。これは宗派や宗教に関わらない真理の教えである、どの道を通ろうとも必ずたどり着く最重要の教えであると私は確信しております。

合掌

南無日月光妙法蓮華經

【お知らせ】

① 十月の勉強会の日程 ○本堂 十月四日（土）五日（日）七日（火）正午より。

○横浜教会 十月十一日（土） ○横須賀支部 十月十九日（日）いずれも午後二時より

○小田原支部 十月二十六日（日）※正午より観音祭を厳修、勉強会は午後二時より

不空羂索観音大祭 九月二十八日 午前十時・午後二時より

※本年は横浜教会のご本尊様の開眼四〇周年となりますので、懸仏様もご供養いたします。

仏像彫刻教室 十月十二日（日）正午より 絵画教室 十月五日（日）勉強会後 本堂にて

※見学・体験もできますのでご興味のある方はぜひお越しくださいませ。

滝行の予定 九月十四日・十月十二日 塩川滝 午前七時集合 十月二十六日 夕日の滝 午前六時集合

九月二十九日（月） 牧馬大滝 ※参加希望の方はご連絡くださいませ。

*七月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（九月八日～十月八日）一年通してのラッキーカラーは緑色です。

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

『唯心偈』（現代口語訳）

心は巧みな絵かきのように、ありとあらゆるもの描き出す。
この世界の中に心がつくり出さぬものはない。

心と同じように仏もそうであり、

仏と同じように私たち衆生もそうである。

心と仏と衆生との三つには、本当の意味で違ひなどはない。

すべての仏はよく知つておられます。「一切は心から生じる」と。

もしこれを正しく理解すれば、その人は眞実の仏に出会うであろう。

心は肉体にとらわれず、肉体もまた心にとらわれない。

仏がなされることは實に自由自在なのである。

もし人が、過去・現在・未来のすべての仏を知りたいと願うなら、

このように世界を見つめなさい

「心こそが、すべての仏を造り出す」と。

『唯心偈』（現代口語訳）

心は巧みな絵かきのように、ありとあらゆるもの描き出す。
この世界の中に心がつくり出さぬものはない。

心と同じように仏もそうであり、

仏と同じように私たち衆生もそうである。

心と仏と衆生との三つには、本当の意味で違ひなどはない。

すべての仏はよく知つておられます。「一切は心から生じる」と。

もしこれを正しく理解すれば、その人は眞実の仏に出会うであろう。

心は肉体にとらわれず、肉体もまた心にとらわれない。

仏がなされることは實に自由自在なのである。

もし人が、過去・現在・未来のすべての仏を知りたいと願うなら、

このように世界を見つめなさい

「心こそが、すべての仏を造り出す」と。